

トルコの核果類事情(サクランボ)

[米国農務省GAINレポート 2025年8月11日](#)

これは米国農務省海外農業局アンカラ事務所(トルコ)が作成した「核果類年次報告書」のサクランボ関係部分を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

トルコの2025/26販売年度(年度)は、深刻な霜害、干ばつ、降雹、及び過度の降雨が果実生産に大きな影響を与え、前例のない農業上の課題となったことが特徴である。サクランボの生産量は60%減の40万トン、モモ及びネクタリンの生産量は45%減の64万9千トンと予測される。これらの減収により国内の価格が上昇したため生産者は国内市場を優先し、輸出量が減少した。現代の農業技術の進歩にもかかわらず、小規模生産者は投入コストの上昇と保険へのアクセスの制約により依然として苦境に立たされている。トルコ政府は農業保険制度(TARSIM)を通じて補償を提供し、登録生産者に補助金を支給しているが、災害の規模は農業部門におけるさらなる支援と回復力構築策の必要性を浮き彫りにしている。

<サクランボ>(甘果オウトウ及び酸果オウトウ)

栽培面積

2025/26年度のサクランボ(甘果オウトウ及び酸果オウトウ)の栽培面積は、前年よりわずかに少ない9万5千ヘクタールと予測される。この面積は、甘果オウトウ7万6千ヘクタールと酸果オウトウ1万9千ヘクタールで構成される。過去10カ年にわたり、サクランボの総栽培面積は10万ヘクタール前後で推移している。

この期間中、栽培面積はほぼ一定に保たれているが、生産者が営農方法を刷新するにつれ、甘果オウトウの結果樹本数がわずかに増加(すなわち密植化)した。トルコの統計によれば、2025年の結果樹本数は甘果オウトウが約2,100万本、酸果オウトウが約500万本である。

トルコでは100品種以上の甘果オウトウが栽培されている。最も人気のある品種はナポレオンで、国内では「0900 ジラート」として知られている。果実はハート型で大きく、ジューシーで、他の品種よりも品質保持期間が長いと、国内外への長距離輸送に適している。過去10カ年にわたり、トルコの研究者達は収量が高く品質の優れたナポレオン品種を開発し、生産者は古い品種を徐々に改良品種へと置き換えてきた。

ナポレオンに加え、生産者はアーリーバーラット、ヴァン、ビング、ビスタ、ノワールドゥグーベン、ノーブル、ランバー、スイートハート、セレステ、アーリーローリー、コルディア、レジーナ、ステラ等、他の多収性甘果オウトウ品種の試験栽培も開始している。

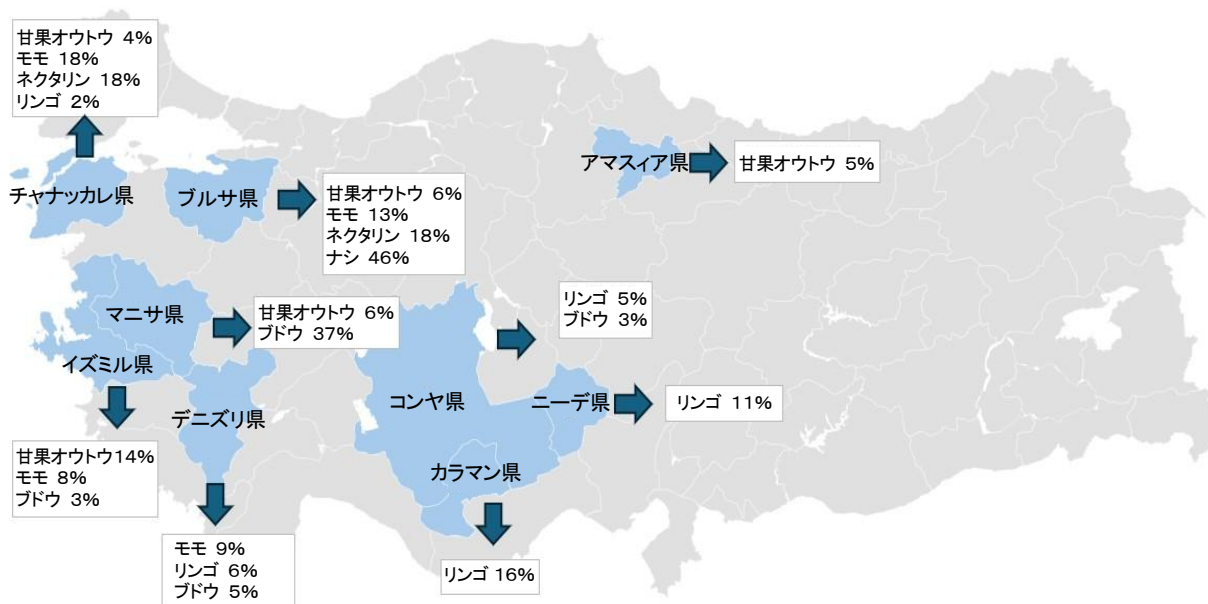
生産

当事務所は、2025/26年度のサクランボ総生産量を前年に比べて約60%少ない40万トンと予測する。これは、2025年3月及び4月に発生した深刻な霜害によるものである。降霜は36県に影響を及ぼし、核果類の生産に大幅な損失をもたらした。

トルコ統計庁(TurkSTAT)は2025年の農業生産の推計値を発表し、2024年の後半から2025年の前半にかけての悪天候により、生産量が大幅に減少したことを明らかにした。干ばつ、農作物への降霜、過剰な降雨、及び降雹は生産に深刻な影響を与え、果実部門の損失は60%にも及ぶと予想されている。当事務所の情報提供者らは、今年の降霜を自然災害と位置づけ、過去30年間にこの国が経験した中で最も深刻な霜害であるとしている(図1)。

2025/26年度のサクランボ生産量の予測には、甘果オウトウ30万トンと酸果オウトウ10万トンが含まれる。この予測は、現地調査及びサクランボ生産者との協議に基づいている。これに対し、トルコ統計庁はサクランボの総生産量を43万6千トン、うち甘果オウトウ32万2千トン、酸果オウトウ11万4千トンと推定している。ただし、今年の異常な気象パターンにより、生産量を正確に予測することは依然として困難であり、今年の推計における標準偏差は例年よりも大きくなると予想される。

図1 主要果実生産県と霜害の影響を受けた生産量の割合



出典: トルコ統計庁 2025

サクランボの生産は主にトルコ西部に集中している。沿岸部のイズミル県及び内陸部のアフィオンカラヒサル県は、それぞれ甘果アウトウ及び酸果アウトウの主要産地である(図2、3)。トルコにおけるサクランボの出荷シーズンは5月に始まり、8月上旬まで続く。サクランボの正確な出荷時期は地域及び気象条件によって異なるが、一般的に収穫の最盛期は6月に始まる。収穫は、5月下旬にエーゲ海沿岸のイズミル県で始まり、その後6月から7月にかけてアフィオンカラヒサル県、コンヤ県等内陸部へ移行する。

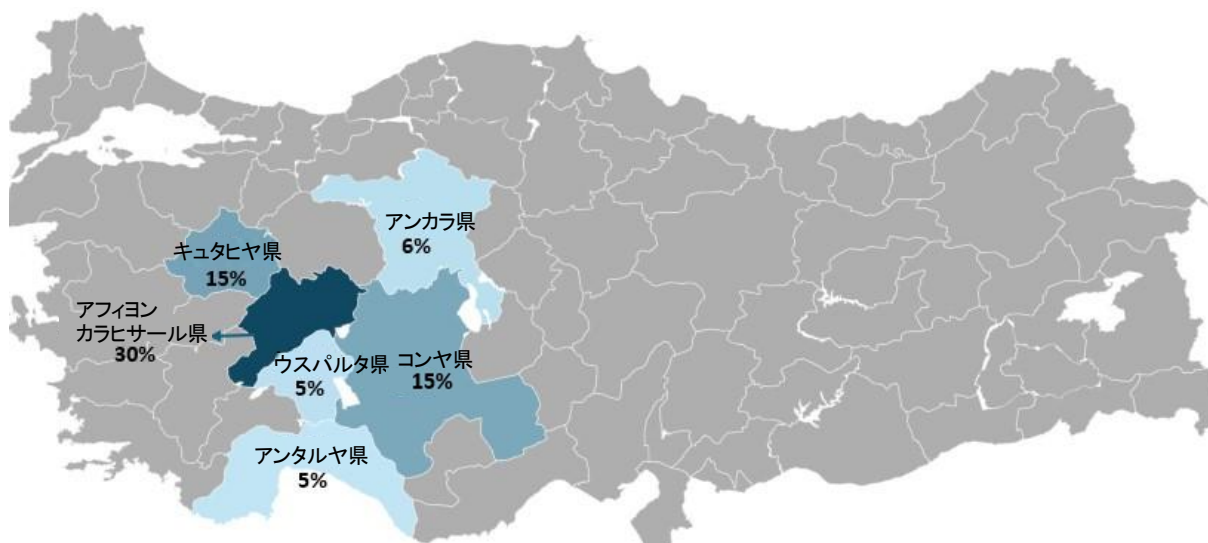
トルコにおける持続的なインフレ状況により、労働力、エネルギー、肥料等の農業投入のコストは上昇を続けている。労働力は投入コスト全体の中で最大の割合を占めており、1日当たり約1,500トルコリラ(36.89ドル)の費用が発生する。このようなコスト上昇の状況下において、一部の生産者、特に小規模事業者は、収益性の確保に苦慮している。

図2 トルコの甘果アウトウの主要生産県



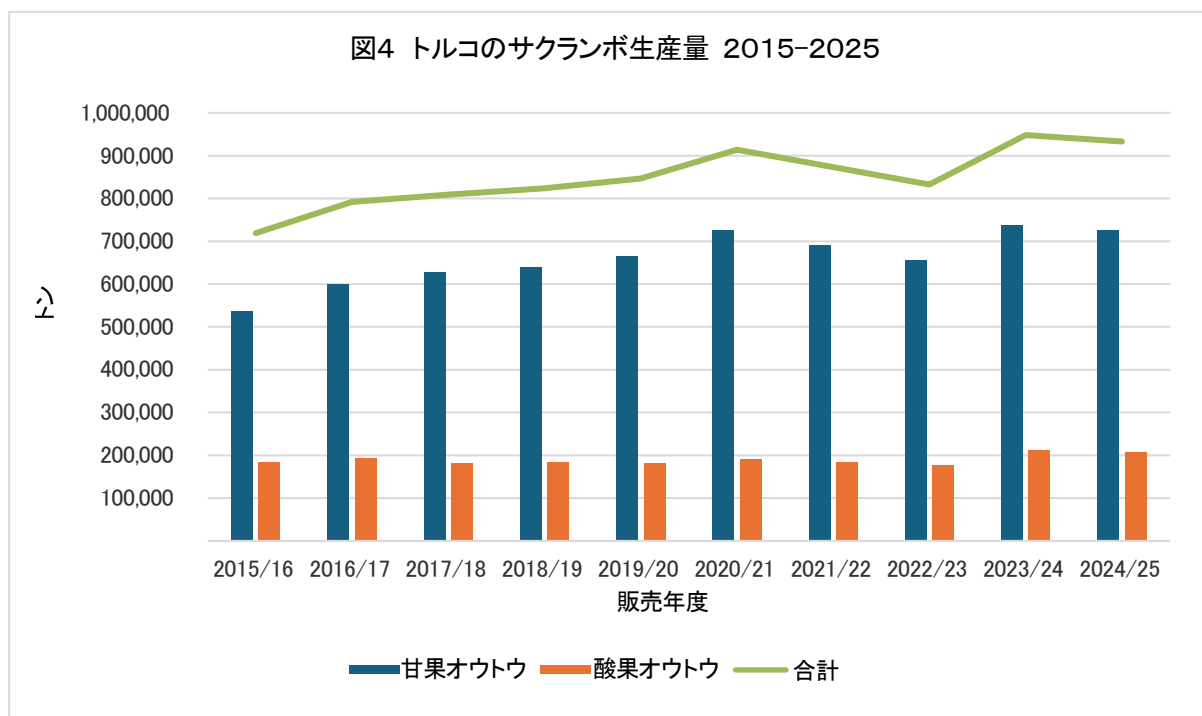
出典: トルコ統計庁 2025

図3 トルコの酸果オウトウの主要生産県



出典: トルコ統計庁 2025

近年の旺盛な輸出需要が、サクランボ生産量の増加の原動力となっており、生産量は過去10カ年で63%増加した(図4)。この増加は主に甘果オウトウの生産拡大によるものであり、そのうちのかんりの部分が輸出されている。一方、酸果オウトウは主としてトルコ国内の果汁・ジャム産業で使用され、その生産量は横ばいである。



出典: トルコ統計庁 2025

トルコは、最新の多収性品種と先端技術を活用した最新の密植果樹園の整備等を通じて、伝統的なサクランボ生産から現代的な生産体制へと徐々に移行してきた。しかしながら、これらの継続的な進歩にもかかわらず、サクランボの生産の大半は、依然として家族経営農場において伝統的な方法で行われている。

消費

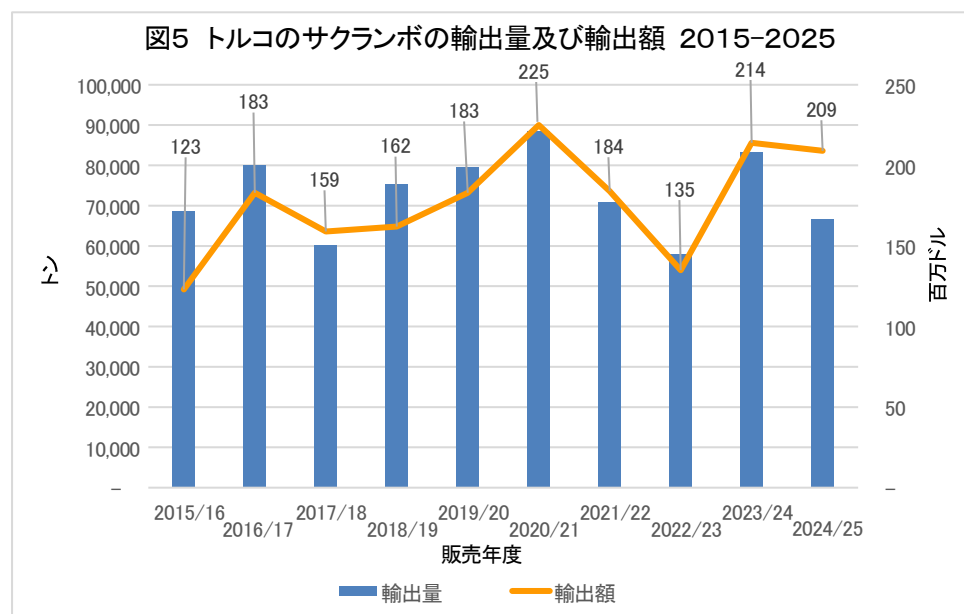
2025/26年度のサクランボの国内消費量は39万トンと予測され、前年の記録から約60%の減少となる。その一部は、深刻な霜害により生産量の減少が見込まれることに起因している。2024/25年度の推計消費量は、同年度の生産量の修正を考慮して約86万6,574トンに上方修正する。

トルコで栽培され、消費されるサクランボ品種は100以上ある。甘果オウトウの大部分は生鮮で消費される一方、酸果オウトウの生産量の90%は、缶詰、マーマレード、冷凍果実、果汁の製造に使用される。

2025/26年度(2025年4月～)の甘果オウトウの農場出荷価格は約200トルコリラ(4.93ドル)/kgであり、小売価格は400～500トルコリラ(7.39～12.32ドル)/kgの範囲であった。酸果オウトウの小売価格は、350～400トルコリラ(2.59～4.46ドル)/kgであった。

貿易

生産量の大幅な減少に伴い、当事務所は2025/26年度の生鮮サクランボの輸出量が1万トンに急減し、最近年に比べ前例のない減少となるものと予測する。生産者は、供給の減少により最近年に比べて価格が上昇している国内市場でのサクランボ販売を優先する可能性が高い。さらに、ドルの為替レートに下押し圧力をかけてインフレを安定させようとするトルコ中央銀行の取り組みにより、トルコのサクランボ生産者は国際市場における競争力を低下させている。為替レート下落により、生産者は輸出市場で提示された価格で生産コストを賄うのに苦慮している。



2024/25年度のトルコ産サクランボの輸出先主要3カ国は、ドイツ、ロシア、ポーランドであった(表1)。ウズベキスタンとイランは、サクランボ生産におけるトルコの主要な競争相手であり、今年のトルコ産の減少を利用して、より競争力のある価格でサクランボを提供している。

出典: Trade Data Monitor, LLC 2025

表1 トルコの生鮮サクランボ輸出量 2020～2025(トン)

輸出先国	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25
ドイツ	25,894	24,558	15,343	26,673	31,460
ロシア	29,788	23,116	25,169	22,638	16,817
ポーランド	449	912	220	1,638	3,010
イラク	7,243	7,128	7,813	10,131	2,590
オランダ	2,142	2,241	1,117	2,028	1,728
イタリア	2,754	1,154	20	2,443	1,093
スペイン	988	79	—	880	1,011
ブルガリア	216	536	246	3,103	944
ノルウェー	1,523	1,520	1,157	1,084	931
デンマーク	1,239	1,031	1,013	905	789
その他	15,276	8,674	5,817	11,929	6,253
世界	87,512	70,949	57,915	83,452	66,626

出典: Trade Data Monitor, LLC 2025

マーケティング

近年、トルコ産甘果オウトウに関し、国内外に向けたマーケティング活動が大幅に増加している。こうしたマーケティング活動の拡大を補完するため、トルコの企業は、サクランボ及びサクランボを使用した製品がより新鮮な状態で消費者の手に届くよう冷蔵保管及び包装作業に対して新たな投資を行った。同時に、生産者は輸出市場で需要のある甘果オウトウの品種を生産しており、より多くのトルコ企業が従来よりもサクランボの輸出に精通してきている。

核果類に関する政策

2025/26販売年度は、広範な農業災害がトルコ政府に大きな課題をもたらした。壊滅的な霜害への対応として、自然災害による収穫量の損失から生産者を保護するために設計された国営保険制度「TARSIM」を通じて、政府は保険加入生産者への補償を行っている。しかし、保険料が高額であるため、保険の加入率は低く、加入者の多くは産業として農業を営む大規模生産者である。一方、保険料を支払う余裕がない小規模生産者は、無保険のままである。TARSIMが保険加入生産者に対して生産コストを補償する一方で、農林省は政府の制度に登録されているすべての霜害被災生産者に対して補助金を支給する計画を発表した。具体的な補助金額はまだ公表されていない。

過去10年間で、核果類を生産する大規模生産者は、彼らの果実に対する安定した需要と政府による継続的な支援により、果樹園の刷新と拡張を徐々に進めてきた。農林省は、オンライン登録システムに加入した生産者に対して支援金を提供している。支援金は、燃料や肥料のコストの一部を補填するとともに、国内で生産される果実の品質向上のために政府認定の苗木の購入を促進する。

農林省は2025年に苗木に対する補助金を発表した。この事業では、1エーカー（約40アール）当たり通常の苗木には488トルコリラ（約12ドル）、認定苗木には1,220トルコリラ（約30ドル）の補助金が支給される。詳細は農林省の公式ウェブサイトで確認できる。ただし、このような支援があるものの、一部の生産者からは収支を償うには十分でないとの不満の声が上がっている。

トルコのサクランボの生産需給統計

甘果オウトウ・酸果オウトウ（生鮮） 販売年度の始まり トルコ	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
	2023 年 4 月		2024 年 4 月		2025 年 4 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	99,200	99,202	99,300	96,753	0	95,000
収穫面積（ヘクタール）	0	0	0	0	0	0
結果樹本数（千本）	27,400	27,431	28,000	26,866	0	26,000
未結果樹本数（千本）	6,600	6,623	6,600	6,311	0	6,000
果樹総本数（千本）	34,000	34,054	34,600	33,177	0	32,000
商業的生産量（トン）	948,082	948,082	900,000	933,200	0	400,000
非商業的生産量（トン）	0	0	0	0	0	0
生産量合計（トン）	948,082	948,082	900,000	933,200	0	400,000
輸入量（トン）	10	0	10	0	0	0
総供給量（トン）	948,092	948,082	900,010	933,200	0	400,000
国内消費量（トン）	864,592	864,804	815,010	866,574	0	390,000
輸出量（トン）	83,500	83,278	85,000	66,626	0	10,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	948,092	948,082	900,010	933,200	0	400,000

公式データには [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。